

## ◆ 平成 28 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 鴻巣こうのとりを育む会

19B-03

代表者：伊藤 鏗義

URL :

### 1. 活動が必要とされた状況

コウノトリの飼育・放鳥後の採餌場となる湿地の確保は必要である。モデルとして、休耕田を利用し湿地を再生することでも水辺・緑地空間の確保は可能である。

併せて市内の小中学生にフィールド学習の場を提供し、コウノトリも棲める自然環境の大切さを教えていく必要がある。



湿地で生きもの探し

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

「コウノトリ隊員になって生きものさがし」と題し市内小学生を父兄同伴で募集したところ約100名の応募があった。草地、湿地での生きもの探しを晩秋の10月29日（土）に実施した。



助成テント前で受付順を待つ参加者



参加者全員で記念撮影

### 3. 活動の成果



バッタの名前を確認する小学生

草地では、定刻を過ぎてもバッタ探しに夢中の小学生が続出、湿地では、希少種のタコノアシ、ミズワラビ、ミクリなどを確認。

アンケート結果によると、①次回も参加したい。②子どもと時間も共有、また、短時間で再生する動植物に感動など、私たちの活動に評価を頂いた一日でありました。

### 4. 今後に残された課題

2箇所の湿地ビオトープ及び無農薬・有機栽培のモデル水田（合計4箇所）、又、ふゆ水田んぼ、なつ水田んぼ、魚道設置、合計の田んぼ面積は約14haとなった。今後、営農家の理解を得ながら、このような環境創造形農業の普及を図る必要がある。